

# 敦賀の魅力映画に込め

敦賀市出身で今春、日本映画大を卒業した山下大裕さん(23)が監督した自主制作映画「弥生の虹」の上映会が27日、同市桜町のきらめきみなと館で開かれた。生まれ育った敦賀でのロケにこだわった力作だ。山下さんは「映像を通じ敦賀の魅力を知ってもらうことで、街を活気づけられれば」と、古里への思いを作品に込めた。

(平井宏一郎)



上映後、出演者と登壇してあいさつする山下監督(左端)(敦賀市のきらめきみなと館で)

作品は閉校を控えた高校が舞台で、卒業を目前にした生徒たちの恋愛を巡る心の揺れ動きを描いた青春ドラマ(74分)。今春休校になった西浦小学校を中心に2月下旬〜3月上旬の16日間、市内の金崎宮や水島などで撮影した。

山下さんが初監督した前作「SNOWGIRL」は敦賀や東京でロケをした。だが「まだまだ敦賀には良い場所がある」と考え、同市でメガホンを握り続けた。

敦賀を愛する気持ちに地元も応じた。インターネットのホームページなどを通じて支援を呼びかけたところ、同市を中心に100を超える個人や団体から約170万円が集まり、制作費の多くをまかなえた。スタッフの宿舎や食事を格安料金で提供

## 古里で上映会 山下監督「応援のおかげ」

してもらったり、撮影衣装の学生服も貸してもらったりしたという。

この日の上映会で山下さんは、約200人の観客を前に「名もない我々が映画を撮るのは無謀だったが、応援してくれる人が本当にたくさんいた。技術も経験もない中でやり遂げられたのは、敦賀のみなさんのおかげ」と頭を下げた。

主役の1人を演じた敦賀気比高3年のタレント濱頭優さん(17)も「敦賀で映画を撮れるとは思っていなかった。敦賀の良さを伝えようと一緒に頑張ったのがうれしい」とあいさつした。

山下さんは今回の作品を映画祭に出品する予定で、今後も希望があれば上映会を開きたいという。大学卒業後は映像制作の仕事に携わっており、映画制作を続ける考えだ。「海も山も目の前にある田舎の風景が魅力。いつか敦賀で商業映画が撮れたらいいな」。古里の美しい風景を、全国の銀幕に映し出すことを願ってやまない。